

令和7年度 実務経験のある教員による授業科目 授業計画表

歯科衛生学科

科目名			分野	教育内容	
解剖学			専門基礎	人体（歯・口腔を除く。）の構造と機能	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
1	前期	2	30	講義、実習	○
実務経験教員による授業の特徴	臨床において歯科衛生士が知るべき解剖学の知識を、歯科診療所における診療経験に基づき、全身疾患と関連付けながら具体的に説明する。				
授業の目的	解剖学は正常な生体の構造を学ぶ学問であり、目標としてはプロフェッショナルになるために必要な基礎知識を身につける。				
到達目標	歯科衛生士として必要な、人体を構成する細胞、組織の基本的構造とその働き、人体の発生の基本を理解する。				
教科書	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔生理学				
評価方法	筆記試験				

	回数	項目	授業項目
授業計画	1	序章	1－人体の構造と機能を学ぶにあたって
	2	I 編1章 細胞と組織	1－細胞
	3	I 編1章 細胞と組織	2－組織
	4	II 編1章骨格系	全身
	5	II 編2章筋系	全身
	6	II 編3章消化・吸収	消化器の構造
	7	II 編4章循環	全身の動脈系・静脈系・胎児循環・リンパ・脾臓
	8	II 編5章神経系	中枢神経系・脳の血管
	9	II 編5章神経系 II 編6章呼吸	末梢神経系 呼吸・呼吸器の構成
	10	II 編7章感覚 II 編11章生殖	外皮・感覚器の構造 生殖器構造
	11	口腔解剖 I 編2章 口腔付近の解剖	口腔とは 口腔を構成する骨
	12	口腔解剖 I 編2章 口腔付近の解剖	頭頸部の筋と作用 顎関節
	13	口腔解剖 I 編2章 口腔付近の解剖	口腔付近に分布する脈管系
	14	口腔解剖 I 編2章 口腔付近の解剖	神経
	15	実習	解剖実習

科目名			分野	教育内容	
生理学			専門基礎	人体（歯・口腔を除く。）の構造と機能	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
1	前期	1	15	講義	○
実務経験教員による授業の特徴		歯科診療所における診療経験に基づき、生理学と全身疾患と関連づけて説明する。			
授業の目的		ヒトの生命現象を機能的側面から考察し、生体のホメオスタシス（恒常性）維持にかかる働きをミクロからマクロに至る幅広い視野で学ぶ。またそれらの機能が体内・体外の環境変化に応じて常に最適解を導くよう動的に作用できる仕組みを知る。生体としてのヒトを対象とする医療は、局所的な知識のみで対応できるものではない。根拠に基づく医療を提供するため、生理学の講義では全身のダイナミクスを総合的かつ科学的に理解し、それをアウトプットできる能力を身に着ける。			
到達目標		1.生体のホメオスタシス維持について説明できる。 2.生体の運動機能・感覚機能・自律神経機能について説明できる。 3.内分泌系の作用機序と生体制御機構について説明できる。 4.体液の分類およびその産生と機能について説明できる。 5.呼吸器・循環器・消化器・生殖器の機能と制御機構について説明できる。			
教科書		歯科衛生士テキスト 生理学 学建書院			
評価方法		筆記試験			

	回数	項目	授業内容
授業計画	1	生理学の意義・細胞	1.細胞生物学を学ぶ意義と生命現象の特徴について概説する。 2.細胞の恒常性（生体恒常性）について説明する。 3.細胞の基本構造と細胞内小器官の機能について説明する。 4.細胞の基本的な機能（受動輸送、能動輸送ならびに興奮および電気現象）について説明する。
	2	体液・体液の循環（その1）	1.血液の組成について概説する。 2.血液の組成について説明する。 3.血球の種類と機能について説明する。 4.血液凝固の機序について説明する。 5.血液型（ABO式、Rh式）の分類方法について説明する。 6.リンパ液および脳脊髄液の機能について説明する。 7.血液循環について説明する。 8.筋の特性について説明する。 9.拍数、心拍出量、脈波、心音について説明する。 10.臓の電気現象（心室筋細胞の活動電位、心電図の基本波形）について説明する。
			1.血圧について説明する。 2.血液循環の調節機構について説明する。

	3	体液の循環（その2） ・呼吸・消化および吸収	2. 図液循環の調節機構について説明する。 3. 図ンパ系の機能および循環について概説する。 4. 図呼吸と内呼吸について概説する。 5. 図気量の内訳について説明する。 6. 図式呼吸と腹式呼吸について説明する。 7. 図ス交換の仕組みについて説明する。 8. 図液の酸素解離曲線について説明する。 9. 図吸運動の調節機構について説明する。 10. 図化の意義について概説する。 11. 図化管各部での消化運動および消化酵素とその働きについて説明する。 12. 図化運動と消化液の分泌機構について説明する。 13. 図栄養素の吸収過程について説明する。
--	---	---------------------------	---

授業計画	4	尿の生成および排出 ・代謝・体温	1. 腎ネフロン構造と機能について説明する。 2. 腎の一般性状について説明する。 3. 腎の生成機序について説明する。 4. 腎液平衡の機能調節について概説する。 5. 腎尿機構について概説する。 6. 腎養素のエネルギー量について概説する。 7. 腎温の変動とその原因について説明する。 8. 腎の産生機構と放散の機序について説明する。 9. 腎腺の種類と発汗の機序について説明する。
	5	内分泌・生殖	1. 内分泌器官の構造と機能について説明する。 2. 各種ホルモンの調節作用について説明する。 3. 各種ホルモンの作用および機能異常について説明する。 4. 性の性周期変化と性ホルモンの関係について説明する。 5. 妊娠・分娩と性ホルモンの関係について説明する。
	6	筋（その1）	1. 筋の種類について概説する。 2. 筋格筋収縮の種類とその過程について説明する。 3. 筋格筋の収縮の機序について説明する。 4. 電図について概説する。 5. 筋筋単位について説明する。
	7	筋（その2）・神経（その1）	1. 神経の種類とその特性について説明する。 2. 神経線維の基本構造と分類について説明する。 3. 興奮伝導の原則について説明する。 4. ナプスにおける興奮伝達について説明する。 5. 神経伝達物質について説明する。 6. 神経系の分類について概説する。 7. 律神経機構について説明する。 8. 髄反射について説明する。
	8	神経（その2）・感覚	1. 脳幹（中脳、橋、延髄）の機能について説明する。 2. 床下部の機能について説明する。 3. 脳の構造と機能について概説する。 4. 脳皮質の構造と機能について概説する。 5. 感覚の分類および内容について説明する。 6. 感覚の一般的特性について説明する。 7. 特殊感覚（味覚以外）について説明する。

科目名			分野	教育内容	
口腔解剖学・組織学			専門基礎	歯・口腔の構造と機能	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
1	前期	3	45	講義	○
実務経験教員による授業の特徴	歯科診療所における診療経験に基づき、具体的な症例資料を用いて授業を行う。				
授業の目的	顔面、口腔およびその周囲組織の成り立ちを理解するために、口腔とその周囲組織の構造と機能に関する基本的知識を習得する。				
到達目標	口腔と関連する頭頸部各部位の名称と機能を説明できる。				
教科書	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔生理学				
評価方法	筆記試験				

	回数	項目	授業内容
授業計画	1	口腔解剖学・組織学・生理学	口腔を学ぶにあたっての概要と取り組み方
	2	口腔を作る骨	顔面ならびに口腔を構成
	3	口腔領域に存在する筋肉	頭頸部の筋の構成と機能
	4	口腔領域に存在する脈管	頭頸部の脈管の概説
	5	口腔領域を支配する神経	頭頸部の神経の概説
	6	口腔領域の内臓	口腔領域の内臓の概説
	7・8	歯の形態	永久歯の種類と特徴
	9・10		歯の形を理解する実習(スケッチ)
	11	歯の形態	乳歯の種類と特徴
	12	歯の形態ならびに構造	歯列と咬合について説明する
	13	エナメル質の構造と機能 象牙質・歯髄の構造と機能	エナメル質の基本構造 象牙質・歯髄複合体の基本構造
	14	セメント質・歯槽骨・歯根膜の構造と機能	セメント質と歯槽骨の組織学的構造と機能 歯根膜の組織学的構造と機能
	15・16	歯と歯周組織の発生	歯と歯周組織の初期発生 歯と歯周組織の後期発生
	17	歯・口腔・顔面の感覚	口腔顔面領域の神経生理学 歯と歯周組織の後期発生
	18	歯・口腔・顔面の感覚	味覚と臭覚 咬合と咀嚼・吸テツ
	19	発生・発語	発生機構の概要
	20	唾液	唾液の分泌構造
	21・22	総復習	口腔解剖学総復習
	23	テスト対策	テスト対策

科目名			分野	教育内容	
口腔生理学			専門基礎	歯・口腔の構造と機能	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
1	前期	1	15	講義	○
実務経験教員による授業の特徴	歯科診療所における診療経験に基づき、口腔生理機能について、臨床で注意すべき事項を示しながら、授業を行う。				
授業の目的	生理学で学んだヒトの生体機能に関する知識を基に、口腔および頭頸部に特化した機能システムを学ぶ。顎運動、口腔感覚、唾液分泌などは摂食・嚥下機能に直接関与する機能でありながら、全身では見られない特殊性も有する。またヒトが言語を発する機能も口腔生理学の重要なテーマの一つである。これらの諸機能が整合性を持って総合的に働く仕組みを知る。ヒトの口腔を対象とする医療は、全身を対象とする医学的知識に加えて口腔特有の知識や理解を要求される。その特殊性を理解した上で根拠に基づく歯科医療を提供するため、口腔生理学の講義では口腔機能を総合的かつ科学的に説明し、それをアウトプットできる能力を身に着ける。				
到達目標	1.味覚を含む口腔諸器官の感覚について説明できる。 2.唾液および唾液腺の機能について説明できる。				
教科書	「歯科衛生士テキスト 生理学」 覚道幸男・吉田 洋他著 学建書院				
評価方法	筆記試験				

	回数	項目	授業内容
授業計画	1	歯および歯の歯周組織の生理	1.歯の硬組織の構造と物理化学的な性状について説明する。 2.歯髄の構造と機能について説明する。 3.歯周組織の構造について説明する。
	2	咬合および顎運動	1.歯種下顎位について説明する。 2.咬合面における切歯点の運動について説明する。 3.咬合平面における切歯点の運動について概説する。
	3	咀嚼	1.咀嚼の意義と目的について概説する。 2.咀嚼周期について説明する。 3.咀嚼能率について説明する。 4.咀嚼筋の構造と機能について説明する。 5.顎反射について説明する。 6.咬合力と咀嚼力について説明する。 7.唇、舌の働きについて概説する。
	4	嚥下・嘔吐	1.咽頭・喉頭の構造について説明する。 2.嚥下反射について説明する。 3.歯槽顎者における嚥下について概説する。 4.異常嚥下について概説する。 5.嘔吐反射について説明する。
	5	唾液腺および唾液（その1）	1.唾液腺の構造について説明する。 2.唾液の生成機構について説明する。 3.唾液分泌の神経機構について説明する。
	6	唾液腺および唾液（その2）	1.唾液の性状と組成について説明する。 2.唾液の働きについて説明する。 3.唾液と歯科臨床の関連性について説明する。

授業計画	7	口腔感覚	1. 口腔粘膜の感覚点と感覚受容について説明する。 2. 歯根膜の感覚について説明する。 3. 咬合・歯の部位感覚の意義について説明する。 4. 口腔の深部感覚について概説する。 5. 口腔の痛覚の意義と特徴について説明する。
	8	味覚・発声および発音	1. 味覚受容器の構造と機能について説明する。 2. 基本味の特性について説明する。 3. 味覚閾値について説明する。 4. 味盲について説明する。 5. 味覚の神経機構について説明する。 6. 発声器官の構造について説明する。 7. 発声の機構について概説する。 8. 発声の性状について説明する。

科目名			分野	教育内容	
病理学・口腔病理学			専門基礎	疾病の成り立ち及び回復過程の促進	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
1	通年	2	30	講義	○
実務経験教員による授業の特徴	病院歯科口腔外科における診療経験に基づき、口腔における病理と全身疾患およびその両者の関係について、臨床で注意すべき事項を実際の臨床のスライドを用いて授業を行う。				
授業の目的	疾患の治療や予防のためには、疾患原因、発生機序および病態変化の理解が必要である。これらの病理学的特徴を理解するために全身に起こる疾病の概念、病院と病態に関する基本的病理学的知識を習得する。病理学で学んだ基本的病理学的変化をもとにして深い知識を習得する。				
到達目標	病気の本態、病気の原因や成り立ちを理解し病気の診断、治療ならびに予防に関する知識を習得する。				
教科書	歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学				
評価方法	筆記試験				
	回数	項目	授業内容		
授業計画	1	病理学概論,病因論	病理学とは 病因論		
	2	遺伝性疾患と奇形	遺伝 遺伝性疾患 奇形		
	3	循環障害	循環障害 循環障害の種類		
	4	代謝障害と退行性病変	細胞障害 変性と物質代謝障害 細胞死		
	5	増殖と修復	進行性病変の種類と意義 創傷治癒と再生 異物に対する生体の処理法		
	6	炎症	炎症の原因と機序 炎症の分類と各炎症の特徴		
	7	免疫応答異常	免疫応答 免疫応答異常		
	8	腫瘍	腫瘍の原因と発生機序 腫瘍の種類と性質 良性腫瘍と悪性腫瘍		
	9	歯の発育異常	歯の異常（大きさ、歯数、形態,構造） 歯の萌出の異常		
		歯の損傷と着色・付着物	歯の損傷の種類 歯の付着物		
	10	う蝕	う蝕の疫学と病因 う蝕の分類 う蝕の組織学的分類		
	11	象牙質・歯髄複合体の病態	歯髄炎 歯髄の退行性変化 象牙質の増生と知覚過敏症		
	12	歯周組織の病態	根尖部歯周組織の病変 辺縁部歯周組織の病変 歯周組織の病変		

授業計画	13	口腔粘膜の病変	口腔粘膜に生じる病変 全身性疾患の徴候として見られる口腔粘膜の病変
		口腔領域の 嚢胞、歯源性腫瘍	口腔領域の嚢胞 歯源性腫瘍と非歯源性腫瘍の代表的な疾患 口腔領域の悪性腫瘍
	14	口腔癌	口腔粘膜の潜在的悪性疾患 上皮異形成と上皮内癌 扁平上皮癌
		顎骨の病変	顎骨・骨髄炎の種類 腫瘍様病変 顎関節の病変
		唾液腺の病変	唾液腺に生じる病変 唾液腺腫瘍
	15	口腔領域の奇形	顔面と口腔の披裂 口腔の発育異常 口腔顎顔面に異常を来たす奇形症候群
		口腔組織の加齢変化	口腔組織（歯、歯周組織、顎骨、舌、粘膜、唾液腺） の組織変化

科目名			分野	教育内容	
微生物学・口腔微生物学			専門基礎	疾病の成り立ち及び回復過程の促進	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
1	前期	2	30	講義	○
実務経験教員による授業の特徴	歯科診療所における診療経験に基づき、臨床で注意すべき事項を実際の臨床のスライドを用いて授業を行う。				
授業の目的	口腔の常在微生物とそれらが原因となる疾患を理解するために、微生物の基本的性状、病原性と感染によって生じる病態と生体の防御機構としての免疫に関する基本的知識を習得する。				
到達目標	人の免疫応答の流れを概説できる。口腔内の感染症の原因となる微生物の特徴を説明できる。化学療法と消毒法、滅菌法の原理と効果を説明できる。				
教科書	歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程2 微生物学				
評価方法	筆記試験				
	回数	項目	授業内容		
授業計画	1	感染の成り立ちと発病	微生物の種類		
	2	細菌の一般性状と病原性	感染症の種類 免疫の概要		
	3	ウイルス	ウイルスの性状 ウイルス感染症		
	4	その他の微生物	真菌について説明する。		
	5	宿主防御機構と免疫	非特異的防御機構と特異的防御機構 免疫の種類		
	6	アレルギー	アレルギー反応の分類と特徴 アレルギー反応の機序		
	7	化学療法と化学療法薬	化学療法薬の種類と特徴		
	8	院内感染対策と滅菌・消毒	滅菌・消毒の方法 院内感染の原因と予防法		
	9	口腔細菌叢	口腔常在微生物について説明する。 口腔内細菌叢の成り立ち		
	10	プラーク、バイオフィーム	プラークの形成機序 バイオフィーム感染		
	11	口腔感染症	う蝕発生のメカニズム う蝕病原細菌		
	12	歯内感染症	歯髄炎に関連する細菌 感染根管と根尖性歯周炎に関連する細菌		
	13	歯周病	歯周病の病状 歯肉炎と病原因子		
	14	その他の口腔感染症	唾液腺の感染症 口腔カンジダ症 誤嚥性肺炎		
	15	細菌培養・顕微鏡観察法	微生物を観察するための方法		

科目名			分野	教育内容	
口腔衛生学			専門基礎	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
1	前期	2	30	講義	○
実務経験教員による授業の特徴	歯科診療所における診療経験に基づき、臨床で注意すべき事項を実際の臨床のスライドを用いて授業を行う。				
授業の目的	歯及び口腔の組織と全身との関連を知り、その健康と機能増進をはかり、人の健康状態と生活の質を向上させることを学ぶ。				
到達目標	口腔疾患における病因論を理解し、その予防手段の立案に関与して個人および集団における歯科保健の実践を学ぶ。				
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学				
評価方法	筆記試験				

	回数	項目	授業内容
授業計画	1	総論	歯・口腔の健康と予防 歯・口腔の構造・機能、歯・口腔の付着物
	2	口腔清掃	口腔清掃の意義・口腔清掃法 歯磨剤・洗口剤
	3	歯科疾患の疫学	う蝕・歯周病の疫学 その他の口腔疾患の疫学
	4	う蝕の予防	う蝕の発生のメカニズム う蝕活動性・う蝕の予防方法
	5	フッ化物によるう蝕予防	フッ化物の性状・代謝・毒性 フッ化物によるう蝕予防法
	6	歯周病の予防	歯周疾患の症状・発生機序 歯周疾患と全身疾患の関連・歯周疾患の予防方法
	7	その他の疾患	口内炎・口腔癌・不正咬合・顎関節症・口臭・ 口腔乾燥症
	8	地域歯科保健	歯科口腔保健法・健康日本21と健康増進法
	9	母子歯科保健	妊産婦歯科保健・1歳6か月児健診・3歳児健診
	10	学校歯科保健	学校歯科保健教育・学校歯科健康診断
	11	成人歯科保健	歯科保健事業
	12	産業歯科保健	歯科健康診断・職域歯科保健
	13	高齢者歯科保健	定期健康診断・口腔機能回復
	14	災害時歯科保健	災害時急性期歯科医療救護・口腔支援
	15	ライフステージの口腔保健	ライフステージごとの口腔保健管理

科目名			分野	教育内容	
衛生学・公衆衛生学			専門基礎	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
2	前期	2	30	講義	○
実務経験教員による授業の特徴	歯科診療所における診療経験に基づき、臨床で注意すべき事項を実際の臨床のスライドを用いて授業を行う。				
授業の目的	衛生・公衆衛生学における健康観を理解し、個人および集団における総合的な健康対策を学習する。				
到達目標	健康と疾病との連続性を知り、科学的根拠に基づく予防対策を説明できる。				
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学				
評価方法	筆記試験				

	回数	項目	授業内容
授業計画	1	総論	保健生態学の定義 健康の概念・予防医学の概念
	2	疫学	疫学の地祇及び概念 疫学の方法
	3	人口	人口の動向 人口動態・静態統計
	4	健康と環境	環境の概念 空気・水と健康 廃棄物処理
	5	感染症	感染症の成立 感染症の予防
	6	食品と健康	食中毒の疫学・予防
	7	地域保健	地域保健の概念・組織・対策
	8	母子保健	母子保健の意義・概要
	9	学校保健	学校保健の意義・概要
	10	成人保健	成人保健の意義・概要
	11	老人保健	老人保健の意義・概要
	12	産業保健	産業保健の意義・概要
	13	精神保健	精神保健・医療・福祉
	14	災害時保健	災害時の保健医療対策
	15	国際保健	国際保健の意義・概要・仕組み

科目名			分野	教育内容	
歯科臨床概論			専門	歯科衛生士概論	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
1	前期	1	30	講義	○
実務経験教員による授業の特徴	歯科診療所における診療経験に基づき、臨床で注意すべき事項を実際の臨床のスライドを用いて授業を行う。				
授業の目的	患者の全身的健康状態や全身疾患を把握するための医療情報歯科疾患の診断および歯科衛生業務の実施に必要な基本的検査及び全身の一般検査の意義と関連を理解する。				
到達目標	歯科診療の流れを理解し、その中で歯科衛生士が主体的に受け持つ役割を理解する。また、各論の授業を有機的に総合して理解できるようになる。				
教科書	歯科衛生士のための歯科臨床概論 医歯薬出版				
評価方法	筆記試験				

	数回	項目	授業内容
授業計画	1	歯科診療のながれの概要	歯科衛生士の役割について
	2	歯科医療の認識と対応	歯科医療の特徴
	3	歯科疾患の概要	う蝕の病因論 う蝕の進行と症状の変化
	4	ライフステージと歯科臨床	歯科的特徴と問題点 対応する領域 歯科衛生士業務 法律に基づく歯科に関連する業務
	5	う蝕の治療	う蝕の各進行段階における治療法 う蝕の予防法と実際
	6	歯周疾患	歯周治療の対象疾患及び診療内容を把握
	7	歯科補綴治療	対象疾患及び診療内容 補綴装置を装着した後の歯科衛生士の
	8	歯科保存	歯科保存学 象牙質知覚過敏症 歯冠部う蝕 根面う蝕
	9	床義歯	部分床義歯と全部床義歯について
	10	歯内療法	歯髄保存療法 歯髄除去療法 感染根管治療
	11	小児歯科	矯正治療の対象疾患及び診療内容の把握
	12	口腔外科治療	対象疾患及び診療内容の把握
	13	歯科医療の変遷	歯科医療の歴史
	14	障がい者歯科・高齢者歯科	障がい者について 障がい者歯科について 障がい者歯科と歯科衛生士 高齢者歯科の特徴
	15	歯科診療のながれの概要	今までに習得した内容を整理する

科目名			分野	教育内容	
歯内療法学			専門	臨床歯科医学	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
2	前期	1	30	講義	○
実務経験教員による授業の特徴	歯科診療所における診療経験に基づき、臨床で注意すべき事項を実際の臨床のスライドを用いて授業を行う。				
授業の目的	歯の硬組織、歯髄および根尖歯周組織などの疾患に対する予防と治療について学ぶ。				
到達目標	保存学としての歯内療法について理解する。歯内療法領域の主な疾患の概要と原因について理解する。歯周炎、根尖性歯周疾患の症状、治療法を説明できる。				
教科書	歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学				
評価方法	筆記試験				

	回数	項目	授業内容
授業計画	1	歯内療法学総論	歯内療法の概要
	2	歯内療法領域の主な疾患の概要と原因	象牙質知覚過敏症 歯髄炎 根尖性歯周炎
	3	歯髄疾患 根尖性歯周組織疾患の処置	分類と症状 歯髄疾患の処置方針
	4	根尖性歯周炎	種類と特徴
	5	歯内療法特有の検査と診断	温度診 歯髄電気診
	6	歯髄保存療法	種類と特徴
	7	歯髄除去療法	種類と特徴
	8	根管治療	術式について説明する
	9	根管充填	処置について説明する
	10	外科的歯内療法	分類と術式
	11	歯の外傷について	歯の外傷の処置について説明する
	12	根未完成歯	処置について説明する
	13	歯内療法における安全対策	偶発事故の種類と事故
	14	歯内療法における歯科衛生士の役割	検査、診断時の役割 歯髄処置時の診療補助業務
	15	歯内療法に使用する薬剤	種類と取り扱い方 器具の滅菌・消毒と保管 薬剤の保管・管理

科目名			分野	教育内容	
歯周病学			専門	臨床歯科医学	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
1	後期	1	30	講義	○
実務経験教員による授業の特徴	歯科診療所における診療経験に基づき、臨床で注意すべき事項を実際の臨床のスライドを用いて授業を行う。				
授業の目的	歯周組織の常態・病態を理解し、歯周病の症状・治療法について習得する。				
到達目標	歯周組織の構造について説明できる。歯周疾患の原因と分類について説明できる。歯周治療の流れを説明できる。歯周基本治療を列挙し、それぞれの特徴を説明できる。				
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯周病学				
評価方法	筆記試験				

	回数	項目	授業内容
授業計画	1	歯周病の基礎知識	歯周病の有病状況、 歯周治療の意義、目的
	2	正常な歯周組織	歯周組織の構成要素、防御機構、再生能力、
	3	構造と機能	加齢変化
	4	歯周疾患の分類	歯肉炎と歯周炎の違い 歯肉病変、歯周病の分類
	5	歯周疾患の病因	細菌因子 宿主、環境因子
	6	歯周疾患の原因	歯周病の原因 歯周医学インプラント歯周炎について説明する
	7	歯周治療の進め方	歯周病の原因、歯周治療基本的考え方 進め方、内容について説明する
	8	歯周組織検査	一般検査による判定法 歯周組織の診査法
	9	歯周外科治療	歯周外科手術の目的と種類
	10・11	歯周病、高齢者	歯周病と全身との関連 高齢者の歯周病
	12	歯周基本治療	内容、目的、意義 ブラークコントロール、SRPの目的と意義
	13	歯周基本治療再評価	暫間固定、咬合調整、習癖の修正目的と意義 歯周治療後の再評価
	14	歯周病と疫学と予防口臭	歯周病の疫学に用いる指数 口臭について
	15	メンテナンスについて	歯周治療後の再評価 メンテナンス、SPTの目的、意義、方法

科目名			分野	教育内容	
口腔外科学			専門	臨床歯科医学	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
2	後期	1	30	講義	○
実務経験教員による授業の特徴	病院歯科口腔外科における診療経験に基づき、臨床で注意すべき事項を実際の臨床のガイドを用いて授業を行う。				
授業の目的	外科手術の際に必要な知識について理解を深め適切な介助技術を学ぶ。				
到達目標	口腔外科領域の疾患についてその特徴、診断法、治療法について説明できる。外科手術の際に必要な知識について理解を深め適切な介助技術を学ぶ。				
教科書	歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学				
評価方法	筆記試験				

	回数	項目	授業内容
授業計画	1	口腔外科の概要	口腔の形態の機能、口腔疾患の特徴
	2	顎・口腔領域の先天異常と発育異常	歯の異常、口唇口蓋裂、顎変形症
	3	顎・口腔領域の損傷および機能障害	歯の外傷、顎骨骨折および軟組織損傷の症状と治療法
	4	口腔粘膜の化膿性炎症疾患	歯槽部、顎骨および口腔軟組織に発生する嚢胞の種類と症状および治療法
	5	顎関節疾患	顎関節の形態と機能、顎関節症、顎関節脱臼
	6	顎・口腔領域の嚢胞性疾患	顎骨および口腔軟組織に発生する嚢胞の種類と症状および治療法
	7	唾液性疾患	唾液腺疾患の症状と治療法
	8	口腔領域の神経疾患	顎、口腔領域の神経疾患の症状
	9	顎・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患	顎、口腔領域の良性、悪性腫瘍腫瘍類疾患の種類と症状
	10	血液疾患	白血病、血友病、紫斑病
	11	滅菌と消毒 手術器具	清潔域・不潔域 消毒・滅菌 手指消毒法
	12	口腔外科小手術	抜歯術・歯根端切除術・膿瘍切開術・歯槽骨切開術の術式について
	13・14	局所麻酔 精神鎮静法 全身麻酔、救急蘇生法	麻酔の目的、各種局所麻酔法と施術時の注意点 精神鎮静法と全身麻酔の適応症と種類 歯科治療時の全身的偶発症とその対応
	15	周術期口腔ケア	手術前後の口腔衛生管理による手術時のトラブル防止 予防法について がんの放射線治療、化学療法による口腔粘膜炎症の予防

科目名			分野	教育内容	
小児歯科学			専門	臨床歯科医学	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
1	通年	1	30	講義	○
実務経験教員による授業の特徴	小児歯科診療所における診療経験に基づき、臨床で注意すべき事項を実際の臨床のスライドを用いて授業を行う。				
授業の目的	身体的・精神的・社会的発達途上にある小児の特徴を理解し、チーム診療の役割について知識と技術を学ぶ。				
到達目標	小児の身体や小児期の口腔疾患と治療の概要について基本知識の習得 および小児歯科医療の中で担役割について理解し説明できる。				
教科書	歯科衛生学シリーズ 小児歯科学				
評価方法	筆記試験				

	回数	項目	授業内容
授業計画	1	小児歯科学概論	小児歯科学について 小児歯科診療と歯科衛生士の役割
	2	心身の発育	発育の概念と分類 発育の評価
	3・4	小児の生理的特徴	生理的年齢 器官の発育 精神的発達 小児の生理的特徴
	5	顔面頭蓋の発育	顎顔面頭蓋の発育 乳歯の特徴 乳歯のう蝕
	6	歯の発育とその異常	幼若永久歯のう蝕・歯の形成 歯の発育時期と形成障害
	7	歯列・咬合の発育と異常	歯列および咬合の発育 歯列・咬合の発育異常
	8	小児の歯科疾患	小児にみられる歯科疾患 先天異常
	9	子供への対応法	小児歯科と成人歯科との対応法の違いについて
	10	小児の外傷の処置	小児の歯の外傷の種類と処置法
	11	咬合誘導	概念ならびに保険装置の種類 適応症
	12	定期診査	意義や検査項目
	13	口腔機能の発達と育成	口腔機能の発達の評価項目や訓練
	14	障がいのある子どもの発達支援	障がい児の特徴と問題点
	15	心身障がい児の歯科診療補助	小児疾患と歯科診療

科目名			分野	教育内容	
歯科矯正学			専門	臨床歯科医学	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
2	前期	1	30	講義	○
実務経験教員による授業の特徴	矯正歯科診療所における診療経験に基づき、臨床で注意すべき事項を実際の臨床のスライドを用いて授業を行う。				
授業の目的	歯科矯正治療に対する知識と補助技術・歯科衛生士としての役割を学ぶ。				
到達目標	矯正歯科治療の概要について説明できる。歯科矯正治療に関係する成長・発育、正常咬合、診断に必要な知識、メカニズムについて説明できる。矯正歯科診療で用いる矯正装置、器具・機器を説明できると共に、歯科衛生士の役割を理解する。				
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科矯正				
評価方法	筆記試験				

	回数	項目	授業
授業計画	1	矯正歯科治療の概要	矯正歯科治療についてする
	2	成長・発育	頭蓋・顎顔面の成長発育 歯・歯列の成長発育
	3	正常咬合と不正咬合	正常咬合について説明する 不正咬合の分類
	4	矯正歯科診断	診断に必要な資料
	5	矯正歯科治療と力	症例分析 強制力と顎整形力
	6・7	矯正装置	可撤式矯正装置、固定式矯正装置 機能的矯正装置、顎外固定装置、顎内固定装置 保定装置、その他の装置
	8	矯正器材	矯正に用いる器材 ブライヤーの種類
	9	上下顎の前後的關係の不調和	過蓋咬合・開口 過蓋咬合症例の治療の実際 開咬症例の治療の実際
	10	成人矯正	補助的・包括的歯科矯正治療 成人歯科矯正治療 顎変形症
	11	口腔顎顔面の形成異常と変形	埋伏歯 先天欠如歯 過剰歯
	12	矯正歯科治療時のトラブル	う蝕、歯肉炎、歯周疾患 歯根吸収 顎関節症 アレルギー トラブルへの対処法
	13	矯正歯科診療における歯科衛生士の役割	検査の補助 質問票、検査 インフォームドコンセント 矯正歯科用器具・材料の準備と取り扱い 装置装着時の補助と指導
	14	口腔保健管理	口腔保健管理 筋機能訓練法
	15	矯正治療	子供・大人の矯正治療 症例別治療の実際

科目名			分野	教育内容	
歯科補綴学			専門	臨床歯科医学	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
2	前期	1	30	講義	○
実務経験教員による授業の特徴	歯科診療所における診療経験に基づき、臨床で注意すべき事項を実際の臨床のスライドを用いて授業を行う。				
授業の目的	歯科衛生士業務を行うために必要な歯質欠損に対する、歯冠修復と歯の欠損に対する咬合回復の治療法を理解する。				
到達目標	補綴歯科治療に関する基礎知識を習得し、説明できる。治療におけるクラウン・ブリッジ治療の実際を習得し、説明できる。補綴歯科治療における。				
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科矯正学				
評価方法	筆記試験				

	回数	項目	授業内容
授業計画	1	歯科補綴治療の基礎知識	補綴装置の種類と適応症
	2	歯の欠損に伴う障害と補綴治療	歯の欠損に伴う障害
	3	クラウン・ブリッジ治療の実際	支台装置とポンティックの選択 特徴および制作法
	4	有床義歯治療の実際	有床義歯の支持装置、把持装置、維持装置について
	5	インプラント診療補助概論	インプラント治療における歯科衛生士の役割 インプラント周囲組織について
	6	全身状態の評価	全身疾患 インプラント治療に対するリスク リスク管理
	7・8	インプラント治療	検査の目的と方法 治療の流れと治療計画 インフォームドコンセント チームアプローチ チームの連携 トラブルと合併症
	9	インプラント体埋入	術式の流れ 手術時のアシスタントワーク
	10	インプラント治療の医療安全	器具の滅菌管理、感染予防について 手術時の消毒滅菌
	11	インプラント補綴法	印象採得 補綴装置のメンテナンス
	12	歯科補綴治療に用いられる器材	器材の名称、使用方法、管理について
	13	補綴歯科治療における歯科技工	クラウン・ブリッジおよび有床義歯の制作方法
	14	補綴歯科治療時の衛生士の役割	検査・診断時の業務 補綴治療時の業務
	15	患者指導	補綴処置後におけるメンテナンスの重要性

科目名			分野	教育内容	
医療安全			専門	歯科診療補助論	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
1	後期	1	30	講義	○
実務経験教員による授業の特徴	病院歯科口腔外科及び歯科診療所における診療経験に基づき、臨床で注意すべき事項を実務経験を紹介しながら授業を行う。				
授業の目的	安全な医療を提供できる知識と能力をを習得する目的。				
到達目標	患者中心の質の高い、安全な医療を提供するために医療安全の必要性、重要性を認識し、必要な知識、技術を習得する。				
教科書	歯科衛生士のための 歯科医療安全管理 第2版				
評価方法	筆記試験				

	回数	項目	授業内容
授業計画	1	歯科医療安全管理 国家試験過去問	アクシデント インシデント ヒヤリハット ハインリッヒの法則
	2	歯科医療安全管理 国家試験過去問	I 医療法の第5次改正とその後 マネジメントの進め方
	3	リスク関係	リスクやミスを共有するコミュニケーション 病院における医薬品安全管理の補佐
	4	医療機器の安全管理	II 医療機器の安全管理 医療機器機器安全管理のための研修
	5	院内感染対策	III 院内感染対策 院内感染対策体制の改善
	6	病院における院内感染	病院における院内感染対策の留意点 滅菌消毒業務管理の基本
	7	歯科診療訪問における感染対策	IV 歯科訪問診療における感染対策 針刺し切創防止対策
	8	感染廃棄物	V 感染性廃棄物の管理・特別管理 産業廃棄物管理 移動時の配慮
	9	施設管理	施設管理 推奨される掲示物
	10	医療情報	I 医療情報・個人情報における基本的な考え方 個人情報プライバシー
	11	個人情報の取り扱いについて	II 個人情報の取り扱いについて 情報の廃棄
	12	医療事故・医療過誤	I 医療事故・医療過誤・インシデント なぜコミュニケーションエラーがおきるか
	13	医療コミュニケーション	医療コミュニケーションの三大コアスキル インシデント・アクシデント事例
	14	クレーム背景としたトラブル	クレームを背景としたトラブル防止 事例
	15	まとめ	演習